一般社団法人 倫理研究所

令和７年度
年次報告



2024-2025
ANNUAL REPORT

RINRI Institute of Ethics

一般社団法人倫理研究所
令和７年度　年次報告
ANNUAL REPORT

令和６年９月１日～令和７年８月31日

CONTENTS

4 **活動トピックス**
… 「地球倫理推進賞」の贈呈
5 … しきなみ子供短歌コンクール
6 … 建築家・内藤廣 なんでも手帳と思考のスケッチｉｎ紀尾井清堂
7 … 丸山奨学金による支援
… 他団体への寄付・協賛
… ラジオ番組の提供
8 **倫理の研究と成果の発信**
10 **家庭倫理の普及**
12 **企業倫理の普及**
14 **海外の普及**
15 **書道や短歌などの文化活動**
16 **倫理を学ぶ多彩なセミナー**
18 **出版物の刊行**
20 **組織概要**
21 … 家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
22 … 主要施設
23 … 沿革

今年度、倫理運動は創始79周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、運動の原点となる「世直し」の精神を呼び戻し、人間性の劣化を防いで向上せしめる教育諸事業を展開。とりわけ全国の会友においては日本人の美質を学び、「人は鏡」を3年目となる共通実践として深めつつ、共歓共悲の心を養うべく力を注ぎました。

研究部門では、専門研究者を中心とした研究体制のもとで純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して成果を国内・海外へ発信しました。また、昨年度に引き続き倫理意識調査を実施し、「倫理文化学」構築へ向けた一環として『倫理文化研究叢書11 異界と倫理』を発行しました。

普及部門の生涯局では、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、創意工夫を凝らした各種活動を通して会員の実践力を高め、倫理体験者を増やして、愛和の家庭づくりを伝え拡げました。支部活動を家庭倫理の会の活動の中心に据え、「支部活動研修」「倫理の集い」等を全国で開催し、地域独自の活動内容についての学びを深めました。また「子育てセミナー」「子供倫理塾」等親子の絆を深め、安心と自信を引き出す行事を行ないました。そのほか、青年会員を対象とした「青年倫理塾」では、9カ月間で5回の合同研修を富士高原研修所ほか各地域で実施。「青年フォーラム」を全国5カ所で開催するなど、激動の時代を生き抜く力を磨きました。

普及部門の法人局では、国内会員社数10万社達成に





日本人の美質を学び「人は鏡」を共通実践として深め、諸事業を展開した令和7年度。

向け、堅実な普及活動により確実な成果をあげつつ、中期5カ年計画の最終年度にあたる今年度は、目標である〝8万社体制確立〟に向けた普及計画を力強く推進しました。倫理経営の重要性をアピールする「倫理経営講演会」を全国751カ所で開催したほか、委員会活動の強化、講師陣の講話力・指導力の向上にも努め、引き続き「人は鏡」の実践に取り組みながら同志の輪を拡げました。また、倫理経営の模範企業を証する「倫理17000」認定制度の充実にも注力し、新規で43社が認定されました。

教育部門では、「いのちの深みへ」をテーマに、受講者が自身の心を深く見つめ、心身の免疫力を向上させる企業・家庭・青少年教育の各種セミナーを展開し、実践力を養成。来所者数は4565名となりました。また、ブラジル松柏学園より来日した学生を対象とした講座を実施したほか、「第67回常設国際アルタイ学会」が開催され、世界16カ国のアルタイ学研究者による学術発表と情報交換が行なわれました。

文化活動は、書道・短歌によって世代をつなぎ、家族の絆を深める芸術活動を展開しました。また、「第20回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を、受賞者3名とその家族や関係者を招いて開催。今回は、紀尾井清堂において受賞作品を「宮中歌会始」の古式にならって披講するなど、20年目の節目にふさわしい内容となりました。本コンクールは、伝統文化の継承と子供達の国語力・感受性を育み、地域の教育力向上にも貢献する公益事業として、文部科学省はじめ教育関係者から高く評価されています。

国際部門は、ブラジル倫理運動が創始25周年を迎えたほか、英語やネイティヴによる普及活動を支援するなど各国の国情に応じた普及を推進しました。また、アジア諸国の留学生6名に「丸山奨学金」を支給しました。

出版部門では、丸山理事長の著書『これが倫理経営のすすめ』を刊行しました。定期刊行物も計画通り発行し、「標語カレンダー」「実践手帳」も好評を博しました。

広報活動では、「第28回地球倫理推進賞贈呈式」を令和7年3月29日に都内ホテルで実施。また、倫理運動の対外発信を担う紀尾井清堂の有効活用や、ホームページの機能強化を図り広報力の向上に努めました。

本年次報告では、令和7年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。







第28回 地球倫理推進賞

主催／一般社団法人 倫理研究所　　後援／文部科学省・産経新聞社・全国

令和7年度
活動トピックス
社会教育団体として、
様々な生涯学習活動を
展開しました。

地球倫理の推進に、実践面で貢献している団体を顕彰しました。



01 「地球倫理推進賞」の贈呈

令和7年3月29日に「第28回地球倫理推進賞贈呈式」を都内ホテルにて開催（後援／文部科学省・産経新聞社・全国民間放送ラジオ局37社）。480名が出席しました。

応募総数46件（国際活動部門18件、国内活動部門28件）の中から、国際活動部門は「特定非営利活動法人 アクセプト・インターナショナル」（永井陽右代表理事）、国内活動部門は「一般社団法人 日本看取り士会」（柴田久美子会長）を表彰しました。

国際活動部門受賞の「アクセプト・インターナショナル」は、東アフリカのソマリアや中東のガザなどの紛争地で活動。テロ組織からの脱退支援・社会復帰プログラムの提供や、刑務所でのカウンセリング・職業訓練・基礎教育等、反社会組織解体とテロと紛争のない世界の実現に向けて尽力しています。



【国際活動部門】特定非営利活動法人 アクセプト・インターナショナル

国内活動部門受賞の「日本看取り士会」は、最期を迎える人と送り出す家族の心に寄り添い尊厳ある死を支える「看取り」を実践。近い将来訪れるであろう「多死社会」に向けて、看取り士の養成や看取りに関する啓発活動を展開し、地域に暮らす全ての人々が最期まで安心できる地域づくりをめざしています。

表彰後の活動報告では、両団体が取り組みと成果を写真や映像を駆使して発表し、出席者に深い感銘を与えました。



【国内活動部門】一般社団法人 日本看取り士会



第20回を記念して、紀尾井清堂にて行なわれた

伝統文化教育への取り組み

02 しきなみ子供短歌コンクール

本コンクールは、日本の伝統文化継承への貢献を理念に掲げ、「短歌づくりを通して、子供たちの国語力を養い、豊かな人間性を育む」ことを目的として開催しています。「第20回しきなみ子供短歌コンクール（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）」には、全国の小学生5万8514名（1188校）より短歌が寄せられ、厳正なる選考の結果、最優秀賞にあたる「しきなみ子供短歌賞」および「文部科学大臣賞」（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選20名、入選289名、佳作480名が選出されました。

令和7年2月16日、紀尾井清堂で行なわれた表彰式には、前述の最優秀賞受賞者とその家族が出席し、前川朋廣副理事長より「しきなみ子供短歌賞」、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐・榎木奨悟氏より「文部科学大臣賞」が授与されました。

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／鶴川 隼士／千葉県・1年
はがぬけたいちねんせいのなつやすみ
にっこりわらうとかぜのとんねる

中学年の部／小薗 奈央／鹿児島県・3年
田んぼにはカエルがたくさんすんでいた
じゃましてごめんいねかりするね

高学年の部／ジェロー 雪乃／千葉県・5年
私とは景色の違う見えかたの戦火の
子ども何色の空



表彰状を掲げた受賞者



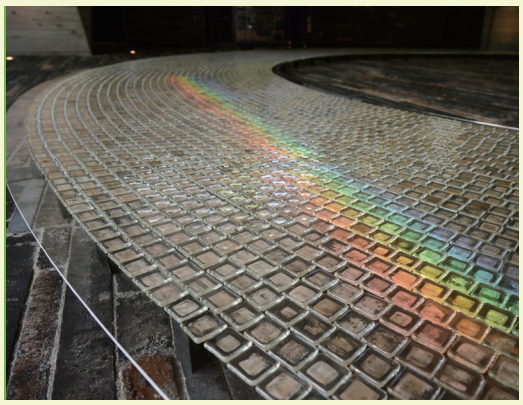
国内外問わず、連日多くの人が訪れた

「紀尾井清堂」にて展示会を開催

03 建築家・内藤廣 なんでも手帳と思考のスケッチ in 紀尾井清堂

倫理運動の対外発信を担う「紀尾井清堂」にて、令和7年7月1日～9月30日まで「建築家・内藤廣なんでも手帳と思考のスケッチ in 紀尾井清堂」を開催しました。

日本を代表する建築家・内藤廣氏は、紀尾井清堂や富士高原研修所の設計に携わるなど、倫理運動との関係も深いことから、今回の企画が実現しました。1階は「東日本大震災への鎮魂」をテーマに、約2万個のガラスピースをリング状に構築したインスタレーションを展示。2階は、内藤氏の近著から印象的なフレーズを抜粋し作品にした「言葉の曼荼羅」。メインとなる3～5階には、氏の40年分の手帳を年代順に公開しました。手帳には、仕事の図面からプライベートまで、内藤氏の思考の軌跡が詰まっています。また、自由に閲覧可能なレプリカや、手帳に記載されている建築物の図面や資料も壁に展示され、建築関係者ならずとも大いに想像力を掻き立てられ、新しい発見や着眼点が生まれるような展示会となりました。9月30日までに延べ5万9656名が来場するなど好評を博しました。



「東日本大震災への鎮魂」をテーマにしたガラスピース作品



内藤氏の手帳のレプリカ

教育・研究およびその他の支援

04 丸山奨学金による支援

令和7年度は「丸山奨学金」3カ国6名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）に奨学金総額845万円を支給し、研究を支援しました。

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探究するとともに、富士高原研修所で学び、日本の精神文化の理解を深めています。

令和７年度 丸山奨学生（６名）

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	筑波大学	日本の前近代における家訓と家庭教育
中国	関西大学	日本と中国の民間信仰と神仏
中国	筑波大学	横井小楠の西洋観と開国論
イスラエル	京都大学	東南アジア開発援助をめぐる日中の競合
イスラエル	名古屋大学	社会を変化させる道具としての外来語
シリア	国際基督教大学	少数派イスラム教徒の安全保障

05 研究者（団体）への支援

倫理研究所の定款に定める目的ならびに「地球倫理の推進」「日本創生」「倫理文化学の構築」等に資する個人および団体の研究を助成しました。同寄付は平成８年より毎年行なっています。

そのほか、創始者の生誕地である福岡県豊前市を鈴江章常任理事が表敬訪問。「豊前市芸術文化振興事業」への寄付目録を西元健市長へ手渡しました。昭和63年より行なってきた同寄付は、今回で38回目となりました。

がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対して学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」の事務所を大木武文理事が訪問し、財団の藤森俊幸常務理事へ寄付金１００万円を手渡しました。同団体へは、平成６年から毎年寄付を行なっています。

06 他団体への寄付・協賛

今年度も伊勢神宮へ式年遷宮御造営資金として１００万円を寄付



豊前市長の西元健氏へ寄付金の目録を贈呈



藤森俊幸常務理事へ寄付金を贈呈

07 ラジオ番組の提供

次の世代に語り継ぎたい日本の「音」を伝えるラジオ番組「録音風物誌」の提供を令和７年度も継続しました。同番組は全国ＡＭラジオ34局が持ち回りで制作。放送開始から70年を越える長寿番組です。倫理研究所は、平成13年１月より番組提供を続けており、放送文化の向上に寄与しています。また、同番組提供を機に、「地球倫理推進賞」や「しきなみ子供短歌コンクール」などに毎年後援をいただいております。



「録音風物誌」最優秀賞・優秀賞の受賞者３名



「贈与とつながり」をテーマに登壇した平良直専門研究員

倫理の研究と成果の発信

研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進しました。専門研究者を中心とした研究体制のもとで、純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して、国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部門の事業に資する知的資産の拡充に努めました。

研究の方向と重点

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究を積極的に推進し、「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究内容
内田智士	恩送り・善悪判断に基づく利他的（間接互恵的）行動・多様性をキーワードに人間の協調的行動について進化ゲーム理論の手法で調査

高橋　徹	天文現象、メキシコのシャーマニズム、昔話を主たるテーマとして、２０２５年以降の世の中の変化を導く創造とはどうあるべきかを研究
寛ボルテール	日本食文化および伝統工芸を日本伝統文化の主な例として調査し、文化遺産の現代における役割や意義について考察
松本亜紀	丸山敏雄の「性の倫理」と戦前の産児制限言説を整理し、その思想的意義を再考して、現代の性教育のあり方を考察
平良　直	日本の旧優生保護法の淵源をたどりながら、優生学・優生思想の定着過程を明らかにし、現代のリベラル優生学の問題点について考察
水野雄司	中根淑の思想を、随筆を題材に、倫理的側面に着目して検証

各種研究会の開催

純粋倫理の研究に関する研究会（1回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（3回）を開催しました。

倫理意識調査の実施

昨年度に引き続き、日本人の倫理意識定点調査を令和7年3月に行ないました。また、以下の通り、倫理意識について2種類の調査を企画し、実施しました。

◇調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー　海野　裕（マーケティングプランナー）

◇調査概要／現代の中小企業は、人口減少や高齢化、デジタル化、価値観の多様化による変化に直面している。経済的成功だけでなく、地域社会の担い手や伝統継承、雇用創出等、多面的な役割が期待される。そこで本調査では、中小企業の倫理経営の基礎を整理し、近江商人の倫理観が現代経営にどう活かされるかを調査。

ア・近江商人についての調査

◇調査方法／インタビューおよびアンケート

◇調査対象／滋賀県倫理法人会会員（9名）

◇調査期間／令和6年7月～令和7年1月（準備期間を含む）

イ・倫理経営についての定量調査（近江商人と一般経営者の比較調査）

◇調査方法／インターネット調査

◇調査対象／調査会社が保有する全国の経営者パネル（約400名）および滋賀県倫理法人会会員（3名）

◇調査期間／令和6年6月～令和7年8月（準備期間を含む）

研究成果の発信

『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、倫理に関する多様な研究成果を発信しました。（関連記事19頁）

通巻	第34号
発行部数	570部

掲載論文

執筆者	テーマ
佐伯啓思	《論説》日本的応報原理を超えるもの
與那覇潤	《論説》現代性の古典学(2)―庄司薫『バクの飼主めざして』
丸山敏秋	「奇蹟」はなぜ起こるのか―ホログラフィック・パラダイムを手がかりとして
内田智士	情報社会における評判と誘導
松本亜紀	戦後日本の公衆衛生活動に学ぶ―ポスト・コロナ社会における健康の自律と地域の力
高橋　徹	海王星の春分点通過と歴史の区切り―文明最後の819年（1206～2025年）を振り返る
平良　直	旧優生保護法の淵源とその展開
水野雄司	中根淑の雅―『香亭雅談』を読む
嚴　錫仁	東アジアの朱子学における「情」論の理解と展開
李　致億	《研究ノート》「謙遜」の儒教倫理的考察

『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通巻	861号～872号
発行部数	5万1100部

『倫理文化研究叢書』

「倫理文化学」構築の一環として、『倫理文化研究叢書11』を発刊しました（令和7年7月15日）。書籍タイトルは『異界と倫理』。（関連記事19頁）

研究資料の蒐集と提供

実践報告原稿869篇を蒐集しました。また、前年度の未分類分を含む990篇と論文237篇を分類整理・保存しました。併せて、教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する図書資料の充実を図りました。今年度は、新たに計847冊を図書資料として登録。また、創始者の遺品蒐集・保存作業、倫理運動史料の蒐集・整理を行ないました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など、諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第40回大会では委員として企画の実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援。また「女性性の本質」に関する研究に対して研究助成を行ないました。加えて、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。



子供たちも一緒に盛り上げた沖縄県の「子育てセミナー」発表会

家庭倫理の普及

家庭倫理の会は「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、創意工夫を凝らした各種活動を通して会員の実践力を高め、倫理体験者を増やして、愛和の家庭づくりを伝え拡げました。

家庭倫理の会は、子育て活動を通して、子育てに対する自信と安心を引き出す活動を展開。青年活動においては、各地域で社会に貢献できる青年の育成に努めました。また、シニア活動は、晩年の生きがいを見出す人々の相互交流につながる多彩な活動を通して、いきいきした人生を歩むシニア世代の輪を拡げ、世代間のつながりを強く結ぶべく諸活動を実施しました。

おはよう倫理塾

純粋倫理の学習と実践を自発的に求める会員を対象に、早朝の自己鍛錬と心境向上の場として開催しました。型に則った内容を遵守し、実践報告や講話を通じて純粋倫理に対する理解を深めました。

開催会場	496カ所
参加者数	61万3155名

子育てセミナー



各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努めました。

開催回数	991回
参加者数	5428名

子供倫理塾

「学び・遊び・躾」をテーマに、小学生を対象とした「子供倫理塾」を開催。純粋倫理についてやさしく解説するとともに「5アクト」の実践を奨励し、基本的な生活習慣を学びました。

開催回数	264回
参加者数	1559名



シニア活動

高齢層の会員および未会員を対象に、活気溢れる相互交流の場を提供する活動を各地で開催しました。高齢層の社会的な孤立化を未然に防ぎ、晩年の生きがいを見出し、次世代の幸福を願うシニア世代の輪を拡げました。そのほか、会独自の「シニア活動」や「シニア活動発表会」など、創意工夫を凝らした活動を行ないました。



純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に開催しました。純粋倫理の基本を『純粋倫理入門』(テキスト本)に基づいて学習し、純粋倫理の理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

青年育成活動

青年倫理塾

生涯局が主催する「青年倫理塾」は、青年層の会員を対象とした体験学習プログラムです。令和7年度は、「日本人の美質をまなぶ」をテーマに掲げ、倫理運動の原点を基底に、日本および日本人の特質・美点を探求しました。大変動の時代を生き抜くための実践力を養い、過去から未来へと続く命の自覚を深めました。令和6年11月～令和7年7月までの9カ月間で、5回の研修を富士高原研修所のほか各地域で開催しました。

青年倫理塾

開催回数	5回
参加者数	108名



青年フォーラム

「青年フォーラム」は、企画・構成から運営に至るまでをすべて青年たちで考え、手づくりで完成させる行事です。今年度のテーマは「Do It Yourself」。青年の弁論を中心に、実行委員によるディベートや手話コーラス、地元中学校によるダンスなど、地域の特色を生かした弁論大会となりました。



会場	来場者数
つくば国際会議場（茨城県）	540名
とよはし芸術劇場（愛知県）	432名
おかやま未来ホール（岡山県）	513名
JR九州ホール（福岡県）	550名
南風原町黄金ホール（沖縄県）	360名
合計	2,395名



全国で開催し、好評を博した「倫理経営講演会」。倫理経営を各地域でアピールした

企業倫理の普及

倫理法人会は、国内会員社数10万社を見据え、堅実な普及活動により確実な成果をあげつつ、5カ年毎に中期計画を設け、段階的に目標を掲げて挑んでいます。

中期5カ年計画の最終年度にあたる令和7年度は、純粋倫理を正しく学んで実践に励み、家庭や職場・地域社会における連帯の絆を強化するため、「人は鏡」の実践に引き続き取り組みながら同志の輪を拡げました。

倫理経営講演会

「経営力を磨く―小さなことから会社は変わる―」をテーマに、令和7年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演により、倫理経営の重要性や、職場に鋭気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	751カ所
参加社数	5万9890社

経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	3万6683回
参加者数	112万3247名



職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	68回
参加者数	790名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。

開催地	1都1府12県
参加者数	154名



倫理経営塾

倫理経営を正しく理解・実践して、健全な企業経営を行なう経営者の育成と、倫理経営の社内浸透による、企業繁栄の実現をめざして開催しました。

開催地	1都8県
参加者数	134名

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	1643回
参加者数	2万7877名

役職者・有資格者の教育

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため「法人レクチャラー研修」を実施。さらに、倫理経営講演会の新任講師を対象とした研修や「倫理経営インストラクター研修」を開催するなど、講師陣の講話力と、指導力向上に努めました。

開催回数	2回
参加者数	149名

倫理経営講演会事業体験報告者研修＆新任法人レクチャラー研修

開催回数	1回
参加者数	41名

倫理経営インストラクター研修



「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和7年度は新たに43社を認定し42社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数	280社（期末）

RINRI 17000



ブラジル倫理運動創始25周年式典

海外の普及

「アジア（世界）のタグボート」を念頭に、国情に応じた倫理普及および地球倫理の実践活動を推進し、海外における倫理運動の拡充を図りました。

台湾

「中華民国倫理研究学会」へは、倫理学習と普及を支援。11月に「創立38周年慶祝大会」が開催され、506名が出席しました。「アジア台湾企業倫理促進会」は、5月に「設立9周年慶祝会員大会」を開催。組織運営の基盤を固めるとともに、定期倫理経営講座を倫理経営の学習と普及の場として充実させ、参画者の発掘と人材の育成を図りました。

アメリカ

「南カリフォルニア倫理の会」の組織運営・普及力向上と文化活動を支援。家庭倫理講演会を数年ぶりに開催しました。「カリフォルニア州倫理法人会」では、3拠点の拡充と人材育成支援のため、定期的に講話映像を提供。



サンディエゴ倫理法人会の講演会

また、現地へ研究員を派遣し、普及・学習の支援も行ないました。そのほか、米国邦字新聞『ニューヨークビズ』に毎週倫理経営に関する記事を掲載し、全米18都市の日系人に広く倫理経営を伝えました。

ブラジル

「ブラジル倫理の会」の倫理学習と普及力の向上をめざす活動を支援。令和7年度は、ブラジル倫理運動創始25周年、ポルトガル語による組織的な活動から15周年の節目を迎えました。「サンパウロ州倫理法人会」では、2拠点の倫理法人会の人材発掘・育成および拡充を図るため、定期的に日本の講師による講話映像を配信しました。

中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、既に交流のある諸団体との関係の継続と、中国における人的交流を推進しました。内蒙古自治区・クブチ沙漠の植林事業は、「地球倫理の森」記念碑周辺の木々の管理・維持のみ継続しました。

書道や短歌などの文化活動



家庭倫理の会名古屋市で行なわれた「家族書道教室」

秋津書道会

「自分の思いを書く」ことを通して個性の発揚や純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、世代をつなぎ家族の絆を深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り、活動の活発化に着実な成果を上げました。

会場数	256支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万8940名



しきなみ短歌会

短歌づくりを通して純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」や、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティア、「初めての短歌教室」などの開催を通して、地域の教育力向上に貢献しました。

会場数	342支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万1088名





「小学生親子セミナー」では親子でキャンプファイヤーを体験

倫理を学ぶ多彩なセミナー

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。令和7年度は4327名の受講生が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

家庭教育に関するセミナー

生活倫理セミナー

「人は鏡 愛和の倫理」をテーマに開催。年代別の講座や「伝承日本」の映像鑑賞等も行ないました。また、丸山敏雄記念館を活用し「倫理運動50年史展」を行ないました。

参加者数（8組）664名

青少年教育に関するセミナー

小学生親子セミナー

小学生は「やればできる」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学習しました。子供は豊かな自然環境の中でのびのびと遊び、体験学習で自立心や協調性を養うべく、池での水遊び、トマト収穫、キャンプファイヤー、富士山トレッキングを実施しました。保護者は、親子相関の原理を中心に学びを深めました。

（令和7年8月開催）

参加者数（8組）313名

中学生セミナー

今年度も、3泊4日で開催。チームワークの形成を目的とした富士登山、自分と向き合う身体ワークや恩意識に気づく実習を実施。また、チームで出し物を考え、自己表現力を養う実習を行なうなど、全体的に体験学習を主軸に学びました。

（令和7年7月開催）

参加者数（1組）55名

高校生セミナー

青年倫理塾と併催。食事と入浴以外は別のプログラムを行ない、一部の実習のみ青年倫理塾の受講者も参加し、学習効果を高めました。基本

実践と恩意識の涵養を中心に取り組み、朝礼実習も行ないました。

（令和7年7月開催）

参加者数（1組）28名

企業教育に関するセミナー

経営者倫理セミナー

受講者数が過去最高を記録しました。丸山貴彦研究員による身体ワークを取り入れ、倫理運動50年史の資料展示を企画。チアアップカードを活用したチームワークづくり、事業体験のケーススタディーも実施し、体感型の学習と実践で倫理の体得と恩意識の深化を図りました。

参加者数（12組）1327名



社員倫理セミナー

幹部社員と一般社員を対象に、「活力朝礼」の活用法や、日常業務の改善と向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と学習を展開。また、活力朝礼マスターコースを設け内容を充実しました。

参加者数（8組）227名

新入社員倫理セミナー

挨拶や後始末などの日常生活の基本動作を体得しました。また、チームワーク向上を体感する講義・実習など、活力を引き出す内容を中心に行ないました。

参加者数（2組）110名

後継者倫理塾　富士研セミナー

次代を担う経営者として、必要な諸能力、チームワーク、恩意識の深化を主軸に、運営スタッフとともに相互の自己錬磨に取り組みました。

参加者数（2組）193名

自主企画セミナー

都道府県倫理法人会、単位倫理法人会の役職者や1社単独など、各自が独自に企画した内容を盛り込んだセミナーを開催しました。

参加者数（6組）319名

映像セミナー

丸山敏雄とその時代

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を学びました。理事長講座や「倫理運動50年史展」のテーマで丸山敏雄記念館の見学を行ないました。

参加者数（2組）179名

限定セミナー

愛和のみそぎ

経営者セミナーチャレンジコース参加者を対象に、みそぎに特化したセミナーを開催しました。

参加者数（1組）41名

恩意識の探求

経営者セミナー受講経験者を対象に、恩の遡源に特化したセミナーを開催しました。

参加者数（1組）27名

その他

生活倫理相談士セミナー

生活倫理相談士を対象に開催。相談士講座のガイドブックを作成し、聴き方の実習等を行ないました。

参加者数（9組）538名

ブラジル松柏学園

ブラジル松柏学園の表敬訪問に伴い、恩意識に気づく講座と実習を行ないました。

参加者数（1組）52名



第67回常設国際アルタイ学会

世界16カ国のアルタイ学の研究者による学術発表と情報交換を行なう、4泊5日の研修を富士高原研修所で行ないました。学会の途中にエクスカーションとしてバスで富士山周辺も見学しました。

参加者数（1組）65名

出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を各部門と連携して行ないました。

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、職場の人間関係を円滑にするポイントや、心豊かな暮らしを実現するためのヒントとなる記事を掲載し、幅広い世代の読者層に純粋倫理をお伝えしました。

丸山敏秋理事長の巻頭言「新世言」、研究員によるエッセイ「日常の倫理」等のレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流に添ったテーマを取り上げました。「実践の軌跡&ポイント」では、主に子育て、夫婦関係の改善、倫理経営に関する実践のポイントを掲載。また、「美しきあきつしま」では全国各地の自然や風景、伝統文化を紹介しました。

通巻	924号～935号
発行部数	97万8700部



『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事9頁）

通巻	861号～872号
発行部数	5万1100部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供。朝礼において自分の考えを自分の言葉で表現するトレーニングの一助となるよう、理解しやすい文章表現に留意しました。

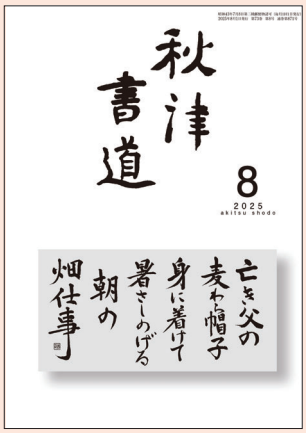
通巻	585号～596号
発行部数	2157万部



『秋津書道』

「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資するよう努めました。

通巻	860号～871号
発行部数	5万5650部



『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理の体得をめざす会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一の短歌誌の名に恥じぬよう、内容の充実を図りました。

通巻	942号～953号
発行部数	7万8450部



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会の情報誌として、倫理経営の要点や法人局研究員による記事を掲載し、会員が事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。

通巻	170号～175号
発行部数	59万5000部



月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外普及活動等の報告記事を掲載。家庭倫理の会については「子育てセミナー」、「シニア活動発表会」、青年活動など各地の家庭倫理の会の諸活動を掲載。倫理法人会については「倫理経営講演会」、開設式典、周年行事、年度目標達成に向けた取り組みなど、各地の倫理法人会の諸活動を紹介。対外活動としては、「第20回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第28回地球倫理推進賞贈呈式」などを紹介しました。

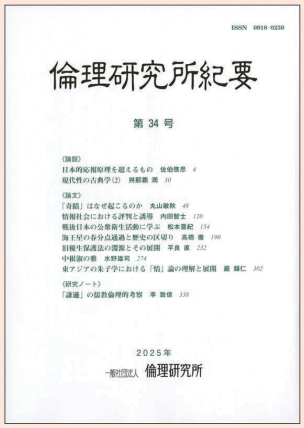
通巻	807号～818号
発行部数	138万1400部



年刊誌

『倫理研究所紀要』

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。（関連記事9頁）



書籍

『異界と倫理 倫理文化研究叢書11』

丸山敏秋著

この世とは別のあの世の存在。すなわち「異界」は、日常生活にひょいと顔を出します。その異界について探索をしながら、人はいかにして生きたらよいのか、どんな生活の筋道があるのかを考察した一冊。（関連記事9頁）



『これが倫理経営 ―ダイジェスト・倫理経営のすすめ』

丸山敏秋著

2012年に刊行した『倫理経営のすすめ』を、ダイジェスト版として要約・加筆しました。「企業は人なり」の観点から、とくに経営者の人間性の基盤をなす生活規範としての倫理、その倫理に基づく経営のあり方について易しく説き明かします。



手帳・カレンダー

「2025 標語カレンダー 今日の道しるべ」

31日分の標語によって、純粋倫理の学びと日々の指針となる実践を明確に表しました。

販売部数	10万9337部



「実践手帳 2026」

「ブルー」と「ピンク」を発売。週間予定の上部には、既刊書籍から選出した倫理の言葉を掲載しました。

販売部数	7301部





組織概要

会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称/2025年9月1日現在）

家庭倫理の会	88,000 名
倫理法人会	73,000 社
秋津書道会	3,500 名
しきなみ短歌会	5,200 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1口）

秋津 会員	1,500 円
〃　（ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃　（ジュニア会員）	500 円

組織概要

名　称　一般社団法人倫理研究所
英文名称　RINRI Institute of Ethics
理事長　丸山敏秋
副理事長　前川朋廣
常任理事　鈴江 章／和田 毅
理　事　12名
監　事　2名
職　員　117名
所在地　〒102-8561
東京都千代田区紀尾井町4-5
TEL 03-3264-2251　FAX 03-3239-7431
創　立　1945年9月3日（倫理運動創始の日）
1948年10月30日に社団法人設立許可
2013年9月2日に一般社団法人へ移行
目　的　倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事　業　1. 社会教育事業
2. 研究事業
3. 出版・広報事業
4. 文化事業
5. 地球倫理推進事業
ホームページ　https://www.rinri-jpn.or.jp



創始者・丸山敏雄

1892（明治25）年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和13）年に「秋津書道院」、1946（昭和21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

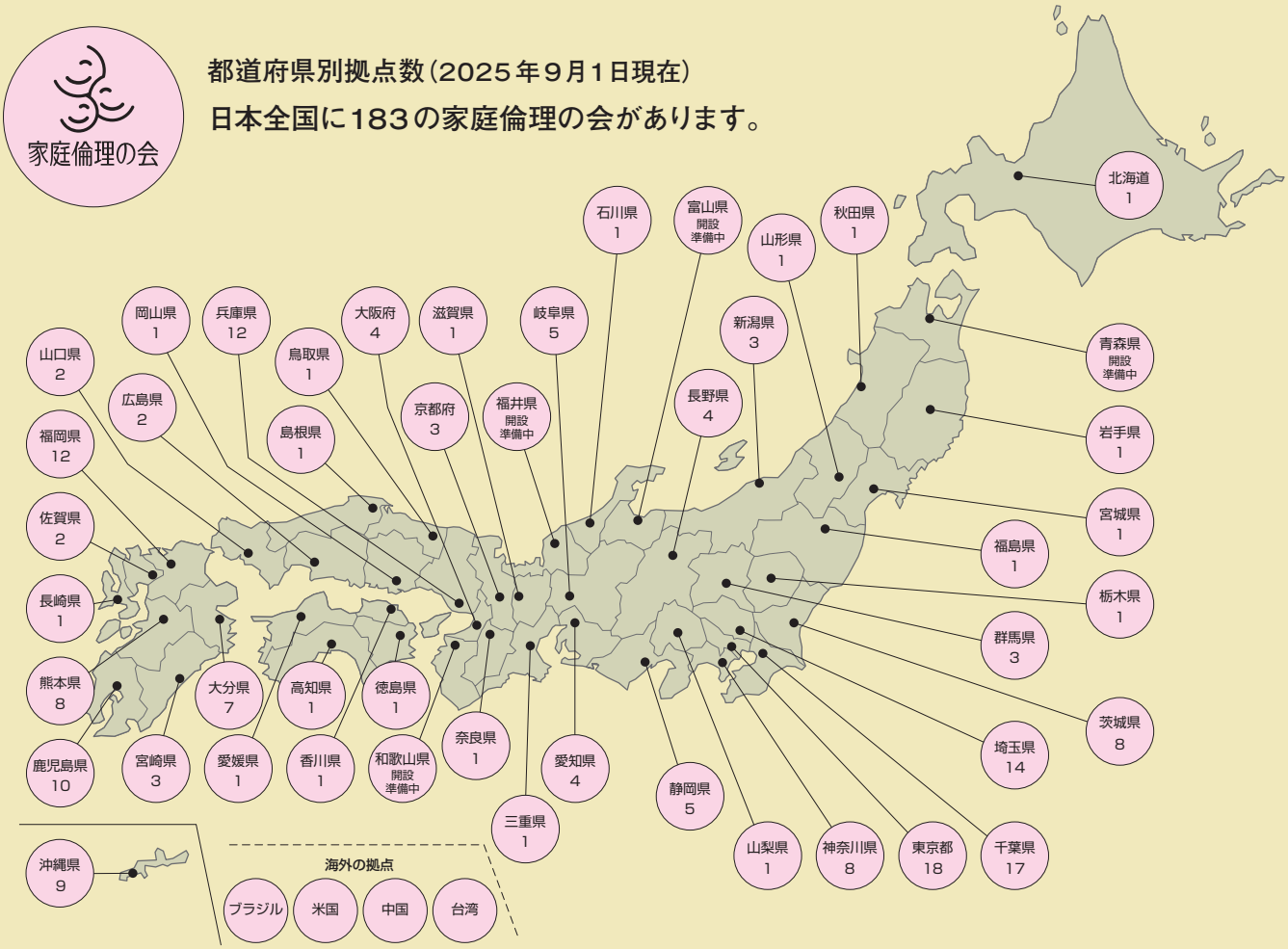
1945（昭和20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数。1951（昭和26）年12月14日逝去。

丸山敏雄ウェブ　https://founder.rinri-jpn.or.jp

家庭倫理の会

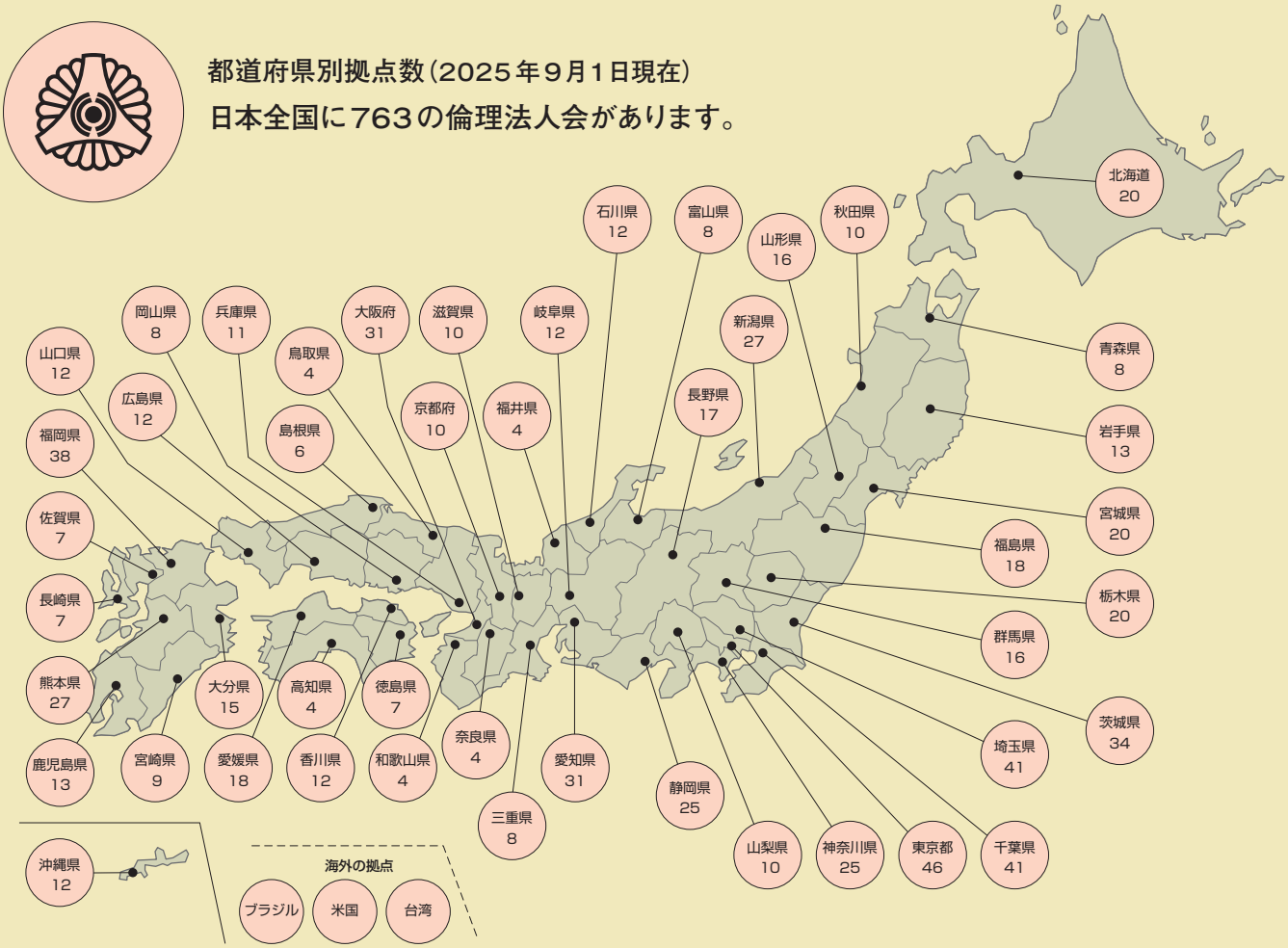
都道府県別拠点数（2025年9月1日現在）

日本全国に183の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数（2025年9月1日現在）

日本全国に763の倫理法人会があります。



主要施設



倫理研究所（本部）

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。

〒102-8561　東京都千代田区紀尾井町 4-5





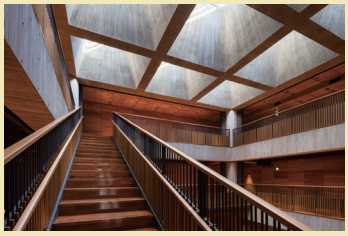


紀尾井清堂

倫理運動創始75周年を記念して令和2年に竣工。本部の真向かいに位置し、展示室やホールを備えています。

〒102-0094　東京都千代田区紀尾井町 3-1







富士高原研修所

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人を対象にした各種セミナーを行なっています。敷地内には他に、富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

〒412-0008　静岡県御殿場市印野 1383-9







倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。

〒180-0022　東京都武蔵野市境 5-6-25



天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006 年復元）に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。

〒828-0081　福岡県豊前市大字天和 392-1

沿 革

1945 年　丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
1946 年　新世文化研究所設立（初代所長・丸山敏雄）。
　　短歌誌『しきなみ』創刊。
1947 年　新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。月刊誌『文化と家庭』創刊（1949年『新世』へ改題）。
1948 年　新世会が社団法人の許可を受ける。
1949 年　「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
1951 年　新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。
　　丸山竹秋、理事長に就任。
1952 年　月刊誌『倫理』創刊。
1953 年　月刊誌『秋津書道』創刊。
1958 年　『十分間の教養集』創刊（1976年創刊の『職場の教養』の前身）。
1966 年　富士高原研修所竣工。
1967 年　中日支所設立、支所体制がスタート。
1968 年　初の全国青年弁論大会開催。
1973 年　アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
1980 年　千葉県に第1号の倫理法人会発足。
1984 年　天和会館（丸山敏雄生誕地記念館）落成。
1985 年　丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立40周年記念大会にて）。
1986 年　中華民国（台湾・台中市）に拠点開設。
1987 年　第1回日中実践倫理学討論会開催。
1989 年　丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
1990 年　倫理法人会1万社達成記念大会開催。
1991 年　年刊誌『倫理研究所紀要』創刊。
1995 年　丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表（創立50周年記念大会にて）。
1996 年　丸山敏秋、理事長に就任。
1997 年　第1回地球倫理フォーラム（「まなびピア新潟」協賛）開催。
1998 年　第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。
　　倫理資料館竣工。
1999 年　創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
2000 年　ブラジル・サンパウロに拠点開設。
2001 年　新富士高原研修所グランドオープン。
2005 年　個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。
　　「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
2006 年　第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。
　　創始者生家（復元）竣工。
2007 年　倫理法人会5万社達成記念大会開催。
2009 年　「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。
　　丸山竹秋没後10年記念大会開催。
2010 年　日中実践倫理学討論会2010開催。
2011 年　富士教育センターオープン45周年記念式典開催。
　　グランドデザイン完成。
2012 年　創始者生誕120年記念式典開催。
2013 年　一般社団法人へ移行。
2014 年　「地球倫理の森」創成15周年記念式典開催。
　　長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
2015 年　「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。
　　創立 70周年記念全国青年弁論大会開催。
2016 年　倫理法人会全国代表者大会開催。台湾にアジア台湾企業倫理促進会設立。南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。
　　倫理研究所本部を移転。
2017 年　オレンジカウンティ倫理法人会設立。
　　サンパウロ倫理法人会設立。
2018 年　カリフォルニア州倫理法人会設立。
2019 年　全国青年フォーラム2019開催。
　　「地球倫理の森」創成20周年記念式典開催。
　　カンピーナス倫理法人会設立。
2020 年　創始75周年記念事業として建設を進めていた紀尾井清堂が竣工。
2022 年　倫理法人会 7 万社大会開催。
　　紀尾井清堂にて「奇跡の一本松の根展」開催。
2023 年　米国倫理運動 50 周年記念式典開催。
2025 年　「建築家・内藤廣 なんでも手帳と思考のスケッチ in紀尾井清堂」開催。

倫理会館

岐阜倫理会館
〒 501-0234 岐阜県瑞穂市牛牧 1496-1

大阪倫理会館
〒 534-0025 大阪府大阪市都島区片町 1-7-20

加古川倫理会館
〒 675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 642-1

広島倫理会館
〒 733-0012 広島県広島市西区中広町 3-24-16

大牟田倫理会館
〒 836-0006 福岡県大牟田市大黒町 1-29-1

京都倫理会館
〒 605-0907 京都府京都市東山区川端五条下ル西橘町 470

龍野倫理会館
〒 679-4167 兵庫県たつの市龍野町富永 410-1

北九州倫理会館
〒 802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借 2-7-28

鹿児島倫理会館
〒 890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 21-2

一般社団法人 倫理研究所　令和7年度 年次報告　ANNUAL REPORT 2024-2025

一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5　TEL 03-3264-2251
ホームページ　https://www.rinri-jpn.or.jp

発行：一般社団法人倫理研究所　編集：倫理研究所総務部　発行日：2025.12.25